

スポーツが与える三つの宝

校長 鈴木 隆志

私たちは野球を愛しています。

私たちは、野球に出会い、野球に魅せられ、野球によって様々な経験を重ねてこの場所に立っています。

いよいよ、今日から夢の舞台へのたった1枚の切符を得るための戦いが始まります。

私たちは、東東京、西東京の頂点を競うライバル同士ですが、同時に同じ夢を追いかける同志でもあります。

青春の全てをかけて戦うことができる幸せと喜びを、支えてくれる全ての皆様に感謝しながら、野球の素晴らしさが伝わるよう、野球の神様に愛されるように全力で戦うことをここに誓います。

今夏、全国高校野球選手権／東・西東京大会の開会式で選手宣誓をしたのは、早稲田実・3年の清宮幸太郎選手でした。西東京大会の準々決勝で早稲田実業が対戦したのは、日本学園高校です。日本学園のエースは、小橋川千寛選手です。彼は八小卒業生、地域の少年野球チーム出身、光っ子たちの先輩です。堂々としたピッチングを見せ、敗れはしましたが、潔い敗者の姿がありました。

ムツミ少年野球部は、1977（昭和52）年から練馬区軟式少年野球連盟光が丘リーグで活動を続けている伝統ある少年野球チームです。光が丘第八小学校と光が丘秋の陽小学校の児童が所属しています。今年の主将は、光八小の6年生です。主将として彼が考えたスローガンは、「笑顔で集合、笑顔で解散」です。今夏、ムツミ少年野球部が都大会に出場しました。私も応援に行ってきました。スローガンドおりの素晴らしい試合ぶりを見せてくれましたが、ベンチの控え選手たちの動きにも、大きな感動を覚えました。ボールボーイとしてファールボールを取りに走る子、そのボールを雑巾できれいに磨き球審に届ける子、インニングの交代時に野手とキャッチボールをする子、水分やタオルを渡す子、元気よく声を出し応援を続ける子、ベンチにいる一人一人に役割があって、試合の始めから終わりまで、休む間もなく一球一球真剣に取り組んでいるのです。レギュラー選手たちだけでなく、控え選手たちも見事に育てていただいている監督やコーチの皆さんの御指導に頭が下がる思いです。

私は若い頃、少年サッカーの監督を務めていました。サッカーの楽しさを伝えることはできたかもしれませんが、試合に出られないベンチの子供たちにはきちんと指導ができていなかったように思います。加えて、「負けたときの振る舞い方」とか「潔き敗者」についての指導をすべきだったと反省をしています。

「負けたときの振る舞い方」や「潔き敗者」についての教えを遺されたのは、慶應義塾の元塾長・小泉信三氏（1888年-1966年）です。テニス選手でもあった小泉は、スポーツ全般をこよなく愛し、その発展に多大な功績を残された方です。1959年には文化勲章を受章し、没後1976年には、野球殿堂入りも果たしました。『スポーツが与える三つの宝』は、小泉が私たちに伝える名言です。「負けたときの振る舞い方」や「潔き敗者」についての教えも、その中で、熱く語られています。

●第一の宝 「練習によって不可能を可能にする体験をもつこと」

（練習を重ね、できなかったことができるようになる。）

●第二の宝 「フェアプレーの精神を身に付けること」

（正しく戦え。卑怯はするな。無礼はするな。潔き敗者たれ。）

●第三の宝 「スポーツによって友を得ること」

（何でも言える友。何を言っても誤解されない友。喜びも苦しみも分かち合える友。生涯の友。）

団体競技でも個人競技でも、どんなスポーツでも、『三つの宝』は共通しています。光っ子たちをスポーツによって健全に育てていただいている指導者の皆さんに、感謝と敬意を表します。学校も、今夏の水泳指導を締めくくり、運動会に向けての練習が始まります。『三つの宝』を大切にしながら、スポーツを愛する光っ子たちに育ってほしいと願っています。